

一般口演 | 外科治療

一般口演35 (III-OR35)

外科治療 4

座長: 崔 禎浩 (宮城県立こども病院 心臓血管外科)

座長: 藤原 慶一 (兵庫県立尼崎総合医療センター 心臓血管外科)

Sat. Jul 7, 2018 10:50 AM - 11:50 AM 第4会場 (303)

[III-OR35-01] Cone法を施行した Ebstein奇形の手術成績の検討

○岩瀬 友幸¹, 小泉 淳一¹, 萩原 敬之¹, 滝沢 友里恵², 中野 智², 高橋 信², 小山 耕太郎², 金 一¹ (1.岩手医科大学 心臓血管外科, 2.岩手医科大学 循環器小児科)

Keywords: Ebstein奇形, Cone法, 三尖弁形成術

【目的】 Ebstein奇形に対し Cone法を用いた三尖弁形成(TVP)が行われているが, 中期的な術後成績に関する報告例は少ない。【方法】 当院で施行した Cone手術に対して, 心胸郭比(CTR), 三尖弁逆流(TR)の程度を中心に評価した。【結果】 Cone手術を施行した症例は7例(新生児期2例, 乳幼児期3例, 成人期2例)。新生児期1例は, TRPG 42mmHgで生後16日(2.9kg)Cone手術施行。Anatomical PAで, 3弁付グラフトで RVOTRを施行したが, 6PODに moderate TR, severe PRとなり Starnes手術施行。10か月時両方向性 Glenn手術, 2歳時 TCPC施行し良好に推移。もう1例は生後9日(3.0kg)で両側肺動脈絞扼術, 主肺動脈結紮術を施行し, TRPG 56mmHgで生後1か月時 Cone手術施行。severe TRを認め18PODに自己心膜パッチによる reTVPと両方向性グレン手術を施行。以後 moderate TRで経過したが, 蛋白漏出性胃腸症による循環不全で術後27か月後死亡。乳幼児の1例は14か月女児(8.7kg), Carpentier type C, 心膜にて中隔尖を形成し, 1 1/2 repairとしたが TR再増悪により2年後 Cone法にて reTVP。CTR65% \rightarrow 57%(術後68ヶ月), TRは II度で経過。残り2例は8か月(8.6kg, type C)と16か月(7.7kg, type B)男児。Cone手術施行し CTRはそれぞれ62% \rightarrow 47%(術後73か月), CTR65% \rightarrow 50%(術後7ヶ月), TRはいずれも III \rightarrow I度に改善。成人の1例は type C, NYHA I度で Cone手術施行後, coaptationが不十分のため中隔尖を自己心膜にて拡大。もう1例は type A, NYHA II度で Cone法に加えて中隔尖を人工腱索にて支持。両症例とも人工弁輪により三尖弁輪を縫縮。術後 CTRはそれぞれ55 \rightarrow 44%(術後94ヶ月), 47 \rightarrow 41%(術後88ヶ月)となり, TRはともに IV \rightarrow I度と改善。【結語】 乳児期ならびに成人例では良好な結果が得られた。一方, 新生児期での手術成績は不良であり, 三尖弁中隔尖組織の程度や右室機能, 肺動脈の形態など良好な条件が必要と考えられ, 治療戦略や適応についての再検討が必要と思われる。